

アカデミック・ライティングのための初級文法項目の再学習

高梨信乃(関西大学)・朴 秀娟(神戸女学院大学)・庵 功雄(一橋大学)

1. 初級文法項目の再学習とは

本パネルセッションでは、日本語教育文法の考え方の一つとして、「初級文法項目の再学習」(高梨2023)を提案する。

日本語教育文法研究の重要な課題の一つに、「初級文法項目の見直し」がある。それは、現行の文法シラバスに、1)初級の文法項目が多く、重すぎる(野田2005など)、2)初級の文法項目を1度教えた後、その後振り返ることがない(小林2005など)という2つの問題点があり、その結果、学習者に不必要な負担をかける一方で、学んだ知識が十分な運用に結びつかないといった弊害がみられるためである。この問題に対応するため、さまざまな学習者のニーズを考慮に入れ、文法シラバスを改善するための研究が行われている(山内2005、庵2009、森2011、岩田・小西2015など)。このような研究は非常に重要であるが、長期的な取り組みとなるため、並行して現行の文法シラバスで学ぶ学習者を支援することもまた重要だと思われる。

初級文法項目の再学習とは、このような観点から、初級の文法項目を中級以降で再度学ぶ機会を学習者に提供するものである。ただし、ここでの再学習とは、単なる復習ではなく、「学習者が必要とする能力に合わせて取り上げる項目を選び、指導のポイントをしぼって再度学ぶ機会を与えることにより、学習者が必要とする使用につなげること」という意味で用いる。

本パネルセッションでは、その一例として、上級学習者のアカデミック・ライティング(以下、AW)という目的に焦点を当て、どのような初級文法項目の再学習が必要であるかについて考察したい。

2. 上級学習者のアカデミック・ライティングの文法の問題

AWに必要な知識・スキルは、①文レベル(文を正確に書く)、②文章レベル(文章を明快に書く)、③AWレベル(学術的文章らしく書く)の3つに分けて捉えることができる(高梨2013)。①→②→③の順により高度なレベルと考えられるが、上級学習者のAWを見ると、もっとも基礎的な①の文法の誤用が多く、その指導に手を取られることが少なくない。

このことに注目した高梨ほか(2017)は、上級学習者3名の修士論文の草稿に見られた誤用を分析しているが、その結果、3名分の誤用254件のうち236件(93%)が旧日本語能力試験の3級以下の文法項目に関するものであることが明らかになった。

以上から、AWでは初級文法項目を正確に習得することが重要であること、そして、それが十分にできていない上級学習者が少なくないということが示唆される。

3. アカデミック・ライティング指導における文法の扱い

では、学習者のAW指導において、文法はどのように扱われているのだろうか。手がかりとして教材類をみても、学習者のAWのための教科書は多数出版されている。これらは扱われている内容から、A)文法重視のもの(小森・三井2016など)、B)表現・文型の提示が中心のもの(浜田ほか1997、佐々木ほか2006、二通ほか2009など)、C)AとBの折衷的なもの(友松2008、伊集院・高野2020など)に分けられるが、数の点で主流なのはBタイプである。Bタイプでは、論文の構成や、論文の各

部分で必要な表現・文型が多数提示されている。そのような情報も学習者のAWIに必要であることは間違いないが、上で指摘したような、学習者の文法の問題を解決するものではない。

以上のことから、上級学習者のAWのための初級文法項目の再学習の必要性が明らかになったと思われる。

本パネルセッションでは、対比の「は」、テンス・アスペクト、自他動詞の対応の3つのトピックを取り上げ、具体的に論じる。

※ 本パネルセッションの構成

[1] 趣旨説明 高梨信乃

[2] 口頭発表

発表① 高梨信乃

「アカデミック・ライティングのための対比の「は」の再学習」

発表② 朴 秀娟

「アカデミック・ライティングのためのテンス・アスペクトの再学習—図表の提示を中心に—」

発表③ 庵 功雄

「アカデミック・ライティングのための自他の対応の再学習—漢語サ変動詞を中心に—」

[3] 全体ディスカッション

【引用文献】

- 庵功雄(2009)「地域日本語教育と日本語教育文法—「やさしい日本語」という観点から—」『人文・自然研究』3、一橋大学
- 岩田一成・小西円(2015)「出現頻度から見た文法シラバス」『データに基づく文法シラバス』くろしお出版
- 小林ミナ(2005)「コミュニケーションに役立つ日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 高梨信乃(2013)「大学・大学院留学生の文章表現における文法の問題—動詞のテイル形を例に—」『神戸大学留学生センター紀要』19、神戸大学留学生センター
- 高梨信乃(2023)「チュートリアル第5回:日本語教育文法」『日本語文法』23-1、日本語文法学会
- 高梨信乃・齊藤美穂・朴秀娟・太田陽子・庵功雄(2017)「上級日本語学習者に見られる文法の問題—修士論文の草稿を例に—」『阪大日本語研究』29、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 野田尚史編(2005)『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 森篤嗣(2011)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』コアデータにおける初級文法項目の出現頻度」『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房
- 山内博之(2005)「日本語教育における初級文法シラバスに関する一考察」『実践國文學』6、実践女子大学

【アカデミック・ライティングの教科書（以下の発表でも引用する）】

- 浜田麻里・平尾徳子・由井紀久子(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版
- 佐々木瑞枝・細井和代・藤尾喜代子(2006)『大学で学ぶための日本語ライティング』The Japan Times
- 友松悦子(2008)『小論文への12のステップ』スリーエネットワーク
- 二通信子・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子・大島弥生(2009)『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会
- 石黒圭・筒井千絵(2009)『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエネットワーク
- 大島弥生・大場理恵子・岩田夏穂・池田玲子(2012)『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房
- 鎌田美千子・仁科浩美(2014)『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ練習』スリーエネットワーク
- アカデミック・ジャパン・リサーチ 研究会(2015a)『改訂版 留学生の日本語 ②作文編』アルク
- アカデミック・ジャパン・リサーチ 研究会(2015b)『改訂版 留学生の日本語 ④論文作成編』アルク
- 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント! レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版
- 二通信子・佐藤不二子(2020)『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエネットワーク
- 伊集院郁子・高野愛子(2020)『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』アスク